筑波のかえる

高次脳機能障害友の会・いばらき

2021年 ～～ 春 号 ～～ 第50号

高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305－0817
茨城県つくば市研究学園4－13－8
TEL　080－5901－9979
E-mail　kojinouibaraki@yahoo.co.jp
H.P　http://nosonshoibaraki.sunnyday.jp/

≪５０号内容一覧≫

はじめに（細川）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

役員会から　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

要望書提出・ネットワーク協議会　・・・・・・・・・・・・３

県北の広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

専門職協会指導者養成研修　・・・・・・・・・・・・・・・６

頑張ってる人（本田恵子さん）　・・・・・・・・・・・・７

高次脳機能障害支援センターより　・・・・・・・・・・・８

関係機関訪問　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

　神栖市社会福祉協議会

　かしま障害者就業・生活支援センター「まつぼっくり」

お知らせ・編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

☆左の写真

　神栖市神之池

☆下の写真

　鹿島セントラルホテル

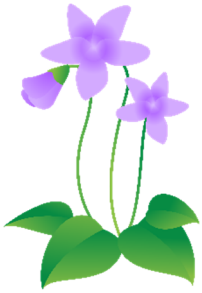
　ひなかざり

　（御所脇充さん　撮影）

はじめに

副会長　細川　善満

コロナウイルス感染の大波が寄せてきている中、今までは有志による県への要望書提出でしたが今回はリスクを避け役員のみとなった。しかし、私は残念ながら高齢者で体調も優れず欠席せざるをえませんでした。



１年前は東京では感染者数が２桁から３桁にといっていたが今では４桁、茨城でも３桁の時がある。公共の施設も相次ぎ使用中止となり、心身の保全に努めていた私も人とのコミニュケーションも絶え、やむなく家にいることが多くなってしまいました。妻は東京で一人暮らしをしている息子のことが心配で心配でたまらなくうつになりそうなので、妻にはそばにいて見守ってあげられるように、当分息子と一緒に暮らすようにお願いしました。

今私は一人暮らしの生活をしています。社会との関係、人との交わりが絶たれ、身体にも不安を抱えていると、何のために生きているのか？社会の役に立っていないし社会の邪魔者では？ろくなことを考えないですね。さらに脳の働きも悪くなり認知症に似た症状もでてくるし、筋肉も衰えて足腰も弱くなりちょっとした段差でもつまづき転倒するし、いいことがない。このままではおかしくなりそうです。ポジティブな私がネガティブになってしまった。人間は一人では生きていけない生物かもしれませんね。

コロナ感染の大波も峠を越えたとのニュースが流れ、１日も早く収束し以前の生活に早く戻りたいものです。脳の活性化として始めた囲碁、将棋、健康麻雀、筋肉の保全のために始めた水中歩行、指先の動きの保全として始めた書道など、同じ趣味をもった仲間と会いたいし語り合いたいものです。コロナ感染の大波のお陰で貴重な経験をしました。

家族３人ですので私たちがいなくなった後、息子は一人になってしまう。非常に心配である。社会の助け、人の助けがどうしても必要となってくる。しかし当事者である息子は助けを望まず、頑なに自立の道を進んでいる。さらに社会の中で必要とされる自分でありたいと思っている節がある。身障者も健常者も分け隔てのない社会であるのが理想かも知れない。そのような社会に少しでも近づけばいいなあと思います。

私たち友の会の周りには、高次脳機能障害支援センター、ネットワーク協議会、県保健福祉部障害福祉課、社協等、当事者会も含めそれぞれの仲間がいます。この関係を大切にしたいものです。世界も個人主義、ナショナリズムが台頭してきていますがいずれは人類として大切な繋がりに向かっていくでしょう。社会として、人としての繋がりの大切さを新型コロナウイルスが教えてくれたかもしれません。

近いうちにはコロナ感染も収束し、自粛要請も解けると信じて、会員のみなさまも会が企画する催しに顔をお見せいただき大いに語り合い集いを楽しみましょう。

家族全員が感染せずにいられたことは喜ばしいことです。このウイルスはしつこくて感染期間も長く、再発の恐れもある厄介なウイルスである。罹らないことが一番です。友の会の皆様も感染に十分に気を付けましょう。早く皆様と顔合わせしたいものですね。「収束」でなく「終息」することを願わずにはいられません。

役員会から

令和２・３年度　高次脳機能障害友の会・いばらき　事業予定

項目 月	会　　員	役　員　会	そ　の　他
3月	12日　家族会交流室 14日　当事者会	16日　役員会	15日　会報誌発行
4月	9日　家族会交流室 未定　県北家族の集い 28日　神栖集会	19日　役員会	
5月	14日　家族会交流室 21日　県北家族の集い 26日　神栖集会 未定　県南集会		未定　総会
6月	11日　家族会交流室 未定　県北集会 23日　神栖集会	15日　役員会	15日　会報誌発行

役　員　会　報　告

令和３年 ２月16日　　議事（１）家族会交流室について
（２）要望書提出に関する反省

令和３年 ３月１６日　　議事（１）各地区集会について
（２）当事者会について
（３）令和３年度総会について

家　族　会　交　流　室　か　ら　の　報　告

◎コロナ感染症拡大の為、令和２年１２月より令和３年２月まで
交流室は中止となりました。

◎今後の予定として
・令和　3年　3月 12日　支援センター⇒小原センター長・野口 CN

・令和　3年　4月 9日　支援センター⇒未定

・令和3年　5月 13日　支援センター⇒未定

※CN は、コーディネーター（Coordinator）の略称です。

要望書提出

今年度はコロナ禍の中での要望書提出となりました。例年なら会員の方や賛助会員の皆さんにも一緒になるべく多くの声を届けたいところですが、今年は役員だけで提出してきました。県の福祉課からは部長さんはじめ７名の方々が出席され、（コロナ禍の為、広い部屋を準備してくださいました）私たちの要望に熱心に耳を傾けてくれました。

会からは役員６名が出席しました。一人一人が要望書に添ってそれぞれの思いを伝えました。当初１時間の予定でしたが、役員が話した後に、部長さんからの質問をきっかけに話が広がり、30 分を超過する充実した時間となりました。

※要望書に関する「回答書」が、県より届きました。会報に同封しますのでご覧ください。

令和２年度高次脳機能障害支援ネットワーク協議会

令和３年２月 22 日（月）午後１時半～3 時半

今回は、コロナ感染拡大による緊急事態宣言の発令中により、WEB 会議システムで行われました。会議のはじめ各委員の自己紹介と共に、所属される団体が今年度に行った高次脳機能障害に関する支援活動のご報告や、今後の取り組み、問題点等を話されました。行政・医療・福祉の関係機関の方々が、支援に向け連携して取り組んでくださっていること、人と人とのネットワークで支援が繋がることを改めて感じ、感慨深い思いでした。

会議の内容は、まず令和２年度の事業計画の進捗状況、相談支援実績、普及啓発事業についての報告がありました。相談者への対応、医療や施設、事業所、そして行政などの調整や技術支援等の他にも支援ツールや支援マップの作製など、多岐にわたる事業内容の報告がありました。

次に令和３年度事業計画案について話され、相談・技術支援、普及・啓発事業、研修事業、そして高次脳機能障害支援ネットワーク構築のための体制図が示されました。地域支援拠点病院を県北、県央、鹿行、県南、県西の各５ブロックに置き、支援コーディネーターが１名配置されます。院内に支援チームを組み、協力病院（22 病院）や、かかりつけ医療機関とも連携を図るための情報交換会や勉強会、担当者会議等が実施されます。行政、医療機関、福祉が連携し情報を共有する体制づくりに向け、様々な事業が展開されるとのことでした。

そして、当会も設立当時よりご支援頂いている社会福祉法人木犀会の米澤氏より、支援団体としての取り組みについてご報告がありました。一人ひとり症状が違う方々への支援の難しさ、家族も障がいを理解し、本人の気持ちに寄り添い、心を育むことの大事さを改めて思いました。

出席団体：ソーシャルワーカー協会、茨城障害者職業センター、医師（精神科医・神経内科医・リハビリテーション科医）、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、支援団体（社会福祉法人木犀会）、茨城県保健福祉部障害福祉課、高次脳機能障害支援センター、茨城県保健福祉部健康・地域ケア推進課（オブザーバー）、高次脳機能障害支援協力病院モデル事業コーディネーター（オブザーバー）、家族会

県北の広場

新型コロナの感染が収まらないため、１２月と２月の県北集会、１月の家族の集いは、中止となりました。今回、集会の報告はありませんが、４名の会員の方から、近況報告やメッセージをいただきました。

友の会に参加できても少人数で短時間、最後の歌はマスクでハミング。そして今は中止に。春と秋に数回、千波湖のデッキでのストリートライブも参加させていただいていますが、やはり中止になることもあり…月に一度、楽しみにしていた友人のお店での食事も行けなくなりました。

今までの日常と全く違ってしまった昨年から、今年になっても仕事や日常の生活で、それぞれが、毎日大変な思いや窮屈な思いをしながら過ごしている状況かと思います。

そんな中、夫はリハビリに行くときの体温測定、マスク、消毒、手洗いとすぐに忘れてしまう状態ですが、今の状況はよく理解できていると思います。施設のスタッフの方々の色々な気遣いのおかげで、変わらずリハビリに通わせていただいているので、本当に有難いです。家族として、やはり不安はありますが生活のリズムが変わらない事が何より大切だと思っています。

何とか少しずつでも、以前のように友の会の皆さんや友人との時間が持てる事を願って、今は出来るだけ笑顔で毎日を楽しみながら過ごせたら良いなと思います。

皆様も無理のないよう、お身体を大切に、お過ごし下さい。

私は昨秋、友の会に入会させていただきました。

夫が昨年４月に脳出血を発症し、入院を経て現在は老健施設に入所しております。コロナ禍の中、夫の高次脳機能障害の実態も把握できず不安ですが、先輩会員さんからの経験を通してのアドバイスを頂戴し、心強く思っております。

これからもよろしくお願いいたします。

皆さんと会って話すことがストレス解消になるので、家族の集いや県北集会が開かれる事を願っています！

新型コロナ感染拡大によって、今年の始まりは例年と異なった始まりでした。そのうえ私は、暮れの掃除の折に倒れ胸の骨を痛め、年始めから安静なくらしを強要され閉じこもっておりました。

当事者の息子は、週４回はホームで暮らし、作業所に通っております。その作業所と同じ敷地のもう一つの作業所で陽性の人がでて、ホームにもその作業所に通う人がいるので、「自宅に帰れる人は帰って」と言われ帰ってきました。自宅から作業所に通うのはバスを乗り継いで通わなければならないので、それも感染の恐れがあると考え、許可を得て作業所を休むことにしました。ストレスを抱えながら２週間の自宅暮らしを終え、今週から出かけていきました。

その間、「かかりつけ医の紹介で検査を受けたい」と保健センターに電話をしましたが、濃厚接触者でもないので難しいということでしょうか断られました。発熱してからでは遅いと思います。５７歳糖尿病、９０歳心臓が悪い２人には、コロナは怖いと思います。個人的に依頼しても受けられないのではないかとも言う人がいますが、市民はどうすればよいでしょうか。

保健センターがどのような状況かわからないのですが、検査を希望しているのに出来ないということを経験して、身の安全を守りましょうと言いつつ、公的体制援助は後回しという印象をうけました。もう少し納得できる説明があったらと思いました。

結果として作業所の中には新しい陽性の人はいなくて、ほっとしました。１日も早くコロナが終息することを願っています。

また皆さんと集える時を楽しみにしています。

県介護予防リハビリ専門職指導者養成研修

「地域包括ケア推進リーダー　実践研修」

日時：令和３年２月21日（日）
会場：茨城県立医療大学

この日、茨城県リハビリテーション専門職協会主催の研修会があり、当会会員の藤井ケイイチさんが「当事者からの学び」として登壇されました。茨城県においてのOT,PT,STのリハビリテーション専門職の方々約70名に、交通事故に遭って入院していた当時の様子を幼なじみで音楽仲間でもある飯島さん、増子さんと共にトークセッションで発表をしました。

事故直後は、自分がシンガーソングライターであることも、翌月にはコンサートを控え忙しい毎日を過ごしていたこともすべての記憶がなくなり、いったい自分は何者と、病室を脱走して病院中を歩き回って自分探しをしたそうです。当事者からその時の思いを聞くと、切実な戸惑いや葛藤の中で大きな不安に押しつぶされそうな気持でいたことが痛いほど伝わってきます。一つ一つの行動には本人なりの訳があり、それを知ればまた本人への対応も違ってくるのかも知れません。

そんなある日、ケイイチさんが作った曲の音楽コードを書き記した紙とギターを本人に渡したところ、いきなりその曲を弾き始めたそうです。そこで医療スタッフと相談をして「音楽療法」を取り入れたリハビリが始まりました。病院としても初めてのことだったそうですが、症状だけを診るのではなく本人を主体的に考えたリハビリであり、主治医は退院の目標を「院内コンサートの実現」と定めました。医療スタッフと家族、音楽仲間、友人との連携したリハビリが始まり、ケイイチさんの代表曲でもある「星屑の観覧車」はCDを300回以上聞いて覚えたそうです。「なかなかハードなリハビリだった」とはご本人からの感想でしたが、２か月経った頃には目標を達成しました。

退院後は様々の場所でライブ活動をするなかやはり戸惑いや葛藤があり、時を経て自分が「高次脳機能障害者」であることを認識したと言います。世間にも自らの意思で公表をし、家族会や高次脳機能障害支援センターとも繋がりました。そして事故後２年を経て、それまで関わって下さった多くの関係者に支えられ、茨城県民文化センターで“念願の復帰コンサート”を開催する事が出来ました。

ところがです。記憶障害の罪深さで、ケイイチさんはその時のことを２日で忘れてしまいました。「ビデオを見れば思い出せるんですけどね！」と、笑顔で話すケイイチさんは、いつも私たちに明るく接してくれます。戸惑いや葛藤があっても家族や周囲の仲間たち、関わって下さる方々の障がいへの理解や信頼関係が、彼を前に推し進めてくれているようです。50分のハイテンポなトークセッション、その後は３曲を熱唱してくださり、トータルで１時間半の講演は、さすがに疲れて帰りの車では爆睡していたそうです。心配しましたが、翌朝には「爽やかな疲れだった」とのことで、無事仕事に向かったそうです。ケイイチさん、お疲れ様でした。　（滝沢）

頑張ってる人 ⑬

山歩きは心に美味しい！

令和３年２月　　守谷市松前台　本田恵子

くも膜下出血で倒れてから３年半が経ちました。高次脳機能障害と左足の動きづらさが残っています。リハビリと運動不足解消のために主人が私にいい景色を観に山歩きを勧めてきました。昨夏まではステイホームでしたので自粛が緩和された紅葉の季節に大好きな上高地に行くことにしました。

秋の北アルプスは初めてなのでまず登山靴やウェアを準備して、山歩きの練習のために筑波山の女体山を途中までトレッキングしました。下山での最後の一歩で安心して気が緩み、つんのめって倒れてしまいました。膝の打撲と擦傷くらいで済みましたが、最後まで気を抜いてはいけないということをあらためて肝に命じました。

そして 10 月、本番の上高地では、大正池から河童橋までの 4km 近くの距離を歩ききることができました。途中には木道や小さな橋などもありましたが、気を緩めることなく転ばずに無事に歩けてほっとしました。紅葉した穂高岳の美しい景色や池に映る黄色く色づいた木々を眺めながら楽しく歩けたのは、主人や息子がときどき手を貸してくれたり、ゆっくりなペースに合わせながら歩いてくれたお陰だと思っています。ようやくで河童橋の横の宿に着き一息つきながら冷たいアイスクリームをご褒美に美味しく食べました。梓川の流れの音を間近で聴きながらのその爽やかな甘い味と、何とも言えない達成感を今でも思い出します。

まだまだ自粛の生活は断続的にやってくるかと思いますが、健康と安全に配慮しながら運動や気分転換をして、心にはいつも小さな楽しみを持って過ごしていきたいと思っています。

紅葉の穂高連峰
上高地の大正池にて

※ 今回の「頑張ってる人」は、本田恵子さんご自身がお書きになった文章です。
「心に美味しい」って、素敵なフレーズですね。

高次脳機能障害支援センターより

新任職員の紹介

野口　沙織

今年度１月より高次脳機能障害支援センターの相談員として務めさせていただきます野口と申します。職種は、言語聴覚士です。以前は、病院、老人保健施設、重度心身障害者施設等で勤務しておりました。今回、センターではリハビリではなく、支援という新しい経験をさせていただき、皆様のお力になれるように取り組んでいきたいと思います。

支援に対し知識・経験がまだまだ不十分ではありますが、経験を積みながら、また、言語聴覚士としての知識が少しでもお役に立てるように、皆様と寄り添いながら一緒に歩ませていただきたいと思います。

今後とも宜しくお願い致します。

センターからのお知らせ

○ 令和２年度　茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座を開催しました。

・期間：令和３年１月 12 日（火）～18 日（月）
・YouTube による動画配信方式

今回はコロナ禍ということもあり、オンライン形式での開催でした。おかげさまで、様々な現場・職種の方から申込があり、184 名（！）の方に受講していただけました。

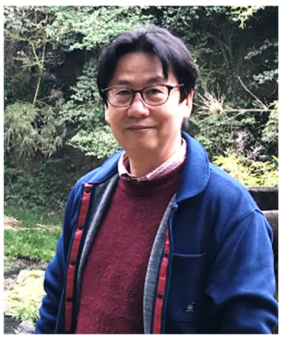
「様々な視点から学ぶことができた」「これまで当事者の方のお話を聞く機会がほとんどなく、困っていることやぶつかる壁、感じ方が性別や世代、受傷原因によって変わることを改めて感じた」「事業所内でも広く共有していきたい」「日々の支援に活かしたい」といった感想をいただき、９割以上の方が「大変参考になった」「参考になった」と高評価でした。

友の会の皆様にもご協力をいただいた講義については、当事者やその家族の方の思いを聞く機会が限られていることから、「一番印象に残る講義でした」といった感想もいただきました。ありがとうございました！

引き続き研修等企画してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お気軽にご相談ください（TEL：０２９－８８７－２６０５）

「意志の上にも三年」



茨城県高次脳機能障害支援センター
センター長　小原昌之

《《 さまざまなこと思い出す桜かな　芭蕉 》》

この３月を持ちまして，県を定年退職することとなりました。友の会の皆さまには，様々な活動の中で当センターにつながっていただきました。気軽にご相談をいただいたり，ご協力をいただいたり，善き間柄として共に歩んでこられましたこと，改めて感謝申し上げます。まだまだ支援に関する課題は，個々人の側面から組織，地域，県，国のレベルに至るまで様々にありますが，これからもお気軽にご意見やご相談をいただくようお願いいたします。

さて，振り返りますと，県立リハビリテーションセンターの廃止が決定された後，高次脳機能障害支援の拠点をどのようにするのか，当時の茨城県高次脳機能障害支援システム整備協議会の場で熱い議論が交わされました。茨城県内の様々な支援機関をサポートし，相互につなぎ，本人やご家族を適切な支援機関にエスコートしていくことを専門的に，きめ細やかにしていくセンターを設立していくべきであること。病院や施設で待つ体制ではなく，支援を望んでいる方々の現場である地域に出向いていく機動力があること。そのためには専門職が病院や施設業務の兼務ではなく，専任のチームで取り組んでいく必要があることが確認されました。障害福祉課，厚生総務課，人事課，医療大学事務局のご理解とご協力のもと，当センターが医療大学の敷地に設置されたことは大変画期的なことでもありました。

センターが発足し，私に与えられた時間は定年までの３年でした。終わりが見えていると，すべきことも整理されてきます。何よりも優先すべきことは，センターの土台となる基本活動を軌道に乗せることでした。そして，概ね当初のイメージ通り，いやイメージを遥かに超えた成果が生まれました。当センターの支援コーディネーターが期待通りに奮闘してくれた結果でもありますし，友の会の皆さんとの協働の結果でもあります。

それまで年間３００件前後の相談件数が１０００件を越えるまでになり，７００を越える支援・関係機関に技術的支援を提供することができました。もちろん実績は数だけで示されるものではありません。本来は一つ一つの相談にどれくらい適切できめ細やかな支援を提供できるようになっているかが大事です。そしてそれは数字には表せない事例報告や，当事者の体験報告によって，関係者に認知され，共有されていくことが必要と思っています。発信し，関心を向けられ，理解される。これは支援の推進すべき三密と言ってもよいでしょう。それぞれ密につながっていくことが大事なのです。

４月からは後任のセンター長やセンターリーダーが引き続きセンターを引っ張っていってくれることでしょう。

私はふたたび一心理臨床家として，望まれる場に赴いていく予定ですが，外側から皆さまを応援してまいります。出会えた縁に別れなし，です。

この３年間，さまざまなご厚情，ありがとうございました。

皆さん，お元気で。ごきげんよう。

関係機関訪問④

神栖市社会福祉協議会

住所　神栖市溝口１７４６－１
　　神栖市保健・福祉会館内
電話　0299-93-0294
※事務局次長荒井真由美さんと名雪義一さんにお話を伺いました。

◇社協における福祉サービスは、各種専門相談（ひきこもり、心の不調、言葉と発達、当事者グループなど）や、市民・ボランティア活動の応援（子育て支援、一人暮らし高齢者の交流など）とても多岐にわたっています。その中でも特に神栖社協の特徴と思われる事業内容についてお聞きしました。

◎地域ネットワーク勉強会の開催

市民の誰もが自由に参加できる勉強会を月に 1 回開催しています。（平成 9 年 11 月にスタート）保健・福祉・医療・教育等、内容は多岐にわたっています。「高次脳機能障害」に関する勉強会も今迄に何回か開催していただきました。

これまでに 165 名の発表者の協力を得て、延べ 9901 名の参加者がありました。講師や参加者同士が出会い、繋がれる勉強会として、大変好評です。

◎福祉後見サポートセンターかみす

平成 28 年度からスタートした事業です。物事の判断が十分でない方々の成年後見利用に関する相談や、高齢者や障害のある方々の日常生活自立支援事業に関する相談等を受け付け、おすすめの仕組みを考えてくれます。親族や専門職後見人に支援が得られない場合は神栖社会福祉協議会が法人として成年後見人を受ける場合もあります。

◎広報誌「かみす社協ニュース」の発行

月に 1 回発行し、新聞の折り込みとして各家庭に配布しています。「社協」の活動をなるべく多くの方に発信し、関心を持ってほしいということで、新聞による全戸配布となりました。発行に関する費用には、会費はもちろんですが市内の店舗や事業所に設置された募金箱（市内の企業が作成）に寄せられた寄付金も大きく役立っています。尚、広報誌は白黒印刷ですが、ホームページではカラーで見られます。また、ボランティアセンターが発行する広報誌「ボラマガ」もあります。

荒井さんや名雪さんのお話をお聞きし、神栖市は福祉の盛んな市だと感じました。私たち家族会の神栖集会も、毎月第 4 水曜日に、この社協の 1 室をお借りして実施しています。

関係機関訪問⑤

社会福祉法人　鹿島育成園
かしま障害者就業・生活支援センター「まつぼっくり」

住所　鹿嶋市国末１５３９－１
電話　0299-82-6475
主任の荒井俊光さんにお話を伺いました。

◇「まつぼっくり」では
- 就職に向けての面接への同行や職場実習のあっせんをします。
- 職場の悩み、日常生活の相談等を受け付けます。

◇支援が受けられる人は
①鹿嶋市、神栖市、潮来市、鉾田市、行方市に居住の方
②障害をもっている方
③就職を目指している方あるいはすでに働いている方

◎支援の流れとしては

まず、「就職に関する相談」だけでなく、「一般相談」という形で、相談を受け付けます。仕事や生活で困っている事や悩んでいる事等を聞き、その方にあった支援方法を考えます。就労の前に生活の立て直しが必要と思われる方には、状況にあった施設などを紹介したり、方法を提案したりします。

就職したいという希望のある方はセンターに登録します。（現在 536 名の登録者のうち高次脳機能障害の方４名）
その後、個々に合った就職に向けての「支援計画」を作成し、ハローワークなどと協力しながら、働く場所を一緒に探します。（就職前に職場実習ができる会社を探すこともあります）

就職が決まった後も、職場での悩みや要望を聞いて仕事が続けられるようにジョブコーチの様な役割をする場合もあります。また、仕事以外の健康管理や生活習慣などについては「生活支援担当」の職員が相談に乗り支援をしていきます。

仕事が軌道に乗ってからも職場訪問や電話相談、在職者同士の交流会などを開くなどの定着支援をしていきます。

「まつぼっくり」では荒井さんをはじめとする支援員の方々が、明るい雰囲気の中で、様々な支援機関と連携を取りながら活動をされている様子が見られました。

お知らせ

～茨城県高次脳機能障害支援センター　小原昌之センター長のご退職に寄せて～

小原昌之センター長は、茨城県での高次脳機能障害支援拠点が県立リハビリテーションセンターに置かれていた時より、相談指導課長として高次脳機能障害支援に携わって来られました。業務が「茨城県高次脳機能障害支援センター」に新たに置かれてから３年、茨城県においての要ともなる支援基盤をゆるぎないものに築くため、大変力を尽くしてこられました。

正直な気持ちとして、県立リハビリテーションセンターが廃止された時には先が見えず、高次脳機能障害支援の先行きを不安に思う事もありました。しかしながら、支援センターのコーディネーターの皆様が息の合ったチームとして真摯に支援に向き合って下さることや、様々な事業を進めてくださっている様子を伺うことで、そのような不安に思っていた気持ちは吹き飛んでしまいました。これからの事業の展開を大いに期待していますし、楽しみでもあります。

支援センターは当会に対しましても、地区集会、当事者会等のご支援だけではなく、会員である当事者や家族に心を寄せて下さっています。小原先生はつねに、「高次脳機能障害支援にはまず家族支援が必要不可欠」と仰ってくださっていました。そのお言葉が、とてもとても心強かったです。様々な研修会、講演会でもそのように話してくださることで、関係機関支援者の皆様にも広がりを見せてくださっています。支援の要は人の心なのだとつくづく思います。

“小原先生、長い間お世話になりました。ご退職後は、自由で心豊かにご活躍してくださることを心よりお祈り申し上げます。またお会いできますこと、楽しみにしております。”

滝沢　静江

《編集後記》

関係機関訪問の取材で、初めて神栖市を訪れました。短時間でもあり、車窓から眺めたのは市の中心部だけでしたが、第一印象は、「空が大きくて広々としたきれいな街」というものでした。遠くには工場地帯が見えました。大きなホテルやビルは有りましたが山がないため空が大きく見えたのかもしれません。

茨城県民なのに、この年になるまで知らない茨城県がまだまだあることを知らされました。

表紙の写真は
県南集会で制作した
「フォトフレーム」です
左～滝沢　勇太さん
右～佐藤　陽介さん